

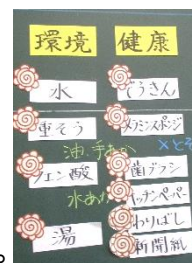
Fusyo Collaboration letter



6月 21日 No.12 文責 廣田 秀俊

授業公開 家庭科 6年生の教室から

“クリーン大作戦に挑戦しよう”と子どもたちが課題に向き合っていきます。本時の課題は『「付いているよごれ」は、どのようにすればいいのだろう』です。掃除の視点【環境・健康】を考慮しながら、方法を整理していきます。掃除道具として、ぞうきん・メラミンスポンジ・歯ブラシ・重曹・クエン酸などが項目にあげられました。



この事柄をもとに、各グループでの実践に入りました。床の汚れは水拭きから実践。「見てみて、汚れが落ちてる」さらに道具を変えていきます。壁の汚れを落とすグループは歯ブラシを試しています。「きれいになってきた」「記録を取ろう」と班員同士で確認しています。窓の汚れを落とそうと新聞紙を広げる子どもたち。重曹も使用していました。汚れ落ちに「すぐ落ちるよ」「はやいな」とつぶやいています。手洗い場の水垢を取り除く作業をしていた子どもたちからは「もうひとつやってみよう」と、こちらもいろいろな道具で確かめていきました。



各グループの発表から、様々な成果が聞かれました。

床をこすった歯ブラシが黒く染まっています。床がきれいになったことを示しています。お湯を使った効果も伝えていくことができました。

階段や壁は、メラミンスポンジとクエン酸の実践が発表されました。重曹よりも汚れが落ちたことを確認していました。



廊下の壁は歯ブラシ効果で汚れがよく取れました。もっと重曹で磨くといいのではとの経過報告をしてくれました。窓は重曹と新聞紙との組み合わせが効果てきめんでした。水道の汚れは、なかなか取り除くことが難しかったようです。キッチンペーパーのつけ置きを実践し、きれいにできたことが実証されました。

それぞれのグループの発表から、成果と課題を確認していきました。

「つけおきは思いつかなかった。密閉空間ですと汚れがとれる」

「仕上げでふきとることで汚れが完全に取れて良かった」

「すごい水垢で汚れがこびりついていたから、汚れに合わせた掃除をしていた」



環境や健康を考えたみんなが使う道具でも効果があったことから、家庭での清掃や普段から行っている“キラキラ掃除”にもつながっていきそうです。学びを生活にいかしていくことができる実践を家庭科の授業からも見つけられました。

